

日本人ノ頸靜脈

京都帝國大學醫學部解剖學教室(木原教授指導)

小河萬藏

On the Jugular Veins of the Japanese

By

Dr. Manzo Ogo

[Anatomical Institute of the **Kyoto** Imperial University (Director: Prof. T. Kihara)]

Since the researches of the form of the jugular veins by Bruno and by Mochizuki, our knowledge on this subject seems to be almost completed. Bruno carried out his study with the Italian material, while Mochizuki did it with the Japanese.

The material with which Mochizuki made his research had been collected at the Anatomical Institute, Medical Department of the Kyoto Imperial University by Prof. Dr. Adachi with the purpose of studying the venous system. The number of the Japanese cadavers studied by Mochizuki were 60 (120 sides) out of 90 which were collected, the remaining 30 being preserved untouched.

I have statistically studied the jugular veins of these 30 subject, and ascertained the fact that the results obtained generally correspond with those of Mochizuki. I have therefore put together my results with those of Mochizuki and given here a statistical description about the 90 cadavers.

(Author's abstract)

目 次

第1章	緒 言
第2章	材料及方法
第3章	前顔面靜脈
第4章	後顔面靜脈
第5章	總顔面靜脈
第6章	外頸靜脈
第7章	前頸靜脈
第8章	頸正中靜脈

第9章	頸靜脈弓
第10章	内頸靜脈
第11章	上中及下甲狀腺靜脈
第12章	内乳靜脈
第13章	大ナル幹靜脈
第14章	頸靜脈ノ大サ及左右形態ノ比較
第15章	男女性の差等

第1章 緒 言

頸靜脈ノ形態ニ關シテハ Bruno. 望月兩氏ノ業績以來略々余等ノ之ニ關スル知識完備セルカ

ノ觀アリ。前者ハ材料ヲ伊太利人ニトリ、後者ハ日本人ニトリタリ。而シテ望月氏ノ材料ハ恩師足立文太郎先生ガ其ノ靜脈系統研究ノタメ特ニ京都帝國大學醫學部解剖學教室ニ於テ採集サレシ本邦人屍90體中60體(120側)ニシテ爾餘ノ30體(60側)ハ未ダ調査サレズシテ貯ヘラレタリ。

第2章 材料及方法

余ノ材料ハ即上述ノ30屍(♂21♀9)ナリ。(第1表) 其ノ頸部ハ常ニ兩側ヲ剖檢シ之ヲ統計的ニ記載セリ。而シテ60側(或ハ例)トシテ計算セリ。該材料ハ凡テ注入材料ニシテ、注入方法ハ心臟ノ右房ヲ開キ上方及下方ヨリ「マツサージ」ニ依リテ靜脈内血液ヲ出來ルダケ追出シ、太キ注入管ヲ右房ヨリ上空大靜脈及下空大靜脈ニ裝置シ色素液ヲ注入セルモノナリ。

靜脈辨ノタメニ色素液ノ流入妨ゲラレタル場合ニハ更ニ淺顯靜脈又ハ前頭靜脈等ノ末梢ヨリ細キ注入管ヲ以テ中心ニ向ヒ液ヲ送レリ。標本製作ニ當リ剖查ノ進ムニ從ツテ表層ノ小靜脈ハ勢ヒ他ノ動脈及神經等ト共ニ損傷ヲ免カレズ、又之ヲ切斷セザレバ深部ニ至ル事能ハザル場合屢々ナリ。然ルガ故ニ剖查ノ深部ニ及ブニ當リテハ表層部靜脈ハ其都度紙上ニ描寫シ又次第ニ記載ヲ増加シ直径2mmニ達セザル靜脈ハ必要ニアラザルモノハ之ヲ除外視セリ。故ニ最後ノ觀察ハ主トシテ描寫シタル圖及ビ記錄ニ依リテ斷案ヲ下セリ。上記ハ望月氏方法ニ從フモ、其ノ描寫器ニ就テハ余ハ服部式直視描寫器ヲ應用セリ。

第 1 表

標本番號	屍體番號	年 齡	性	標本番號	屍體番號	年 齡	性
1	不明	50	♂	16	2849	32	♂
2	3141	49	♂	17	3264	27	♂
3	3290	21	♂	18	2596	37	♂
4	3253	20	♂	19	6145	26	♀
5	3311	55	♂	20	4911	50	♂
6	3170	23	♂	21	3164	73	♀
7	3256	23	♂	22	不明	35	♀
8	4846	28	♀	23	2936	52	♂
9	3232	46	♂	24	4915	28	♂
10	3275	41	♂	25	3162	60	♂
11	2193	33	♀	26	4956	13	♂
12	4811	19	♀	27	4849	28	♀
13	4857	59	♂	28	4856	48	♂
14	4851	84	♀	29	不明	40	♀
15	2675	60	♂	30	4858	55	♂

第3章 前顔面靜脈

前顔面靜脈ノ經過ニ就テノ詳細ナル報告ハ顔面部靜脈ノ篇ニ譲リ茲ニハ主トシテ前顔面靜脈ノ開口ニ關スル系統的觀察ヲ記載セントス。前顔面靜脈ノ開口ハ次ノ如ク7種ニ區別スルコトヲ得。

第 1 型 後顔面靜脈ト共ニ明ラカニ總顔面靜脈ヲ作ルモノ。

望月	120例	調査總數	♂	右21例	左12例	♀	右2例	左3例	計38例	31.6%
小河	60例	調査總數	♂	右12例	左10例	♀	右3例	左3例	計28例	46.6%
計	180例	調査總數	♂	右33例	左22例	♀	右5例	左6例	計66例	36.6%

Bruno イタリ人60屍ノ調査成績ニ依レバ總顔面靜脈ヲ作ルモノ

(但シニ腹頸筋及莖狀舌骨筋ノ外側ヲ經テ來ル後顔面靜脈ト合ス)

	100例								27%
望月	120例							15例	12.5%
小河	60例							11例	18.3%
計	180例							26例	14.4%

第 2 型 外頸靜脈ニ入ルモノ

望月	120例	♂	右13例	左12例	♀	右5例	左8例	計38例	31.6%
小河	60		4	8		2	3	17	28.3
計	180		17	20		7	11	55	30.5

Bruno 100例 (Bruno ノ所謂總顔面靜脈ガ胸鎖乳樣筋ノ外側ヲ下行シテ外頸靜脈トナルモノ) 32%

第 3 型 内頸靜脈ニ直接開口スルモノ

望月	120例	♂	右7例	左13例	♀	右4例	左3例	計27例	23.5%
小河	60		0	0		1	1	2	3.3
計	180		7	13		5	4	29	16.1

Bruno 100 4

第 4 型 前頸靜脈トナルモノ或ハ之ニ開口スルモノ

望月	120例	♂	右1例	左6例	♀	右6例	左3例	計16例	13.3%
小河	60		1	4		0	1	6	10.0
計	180		2	10		6	4	22	12.2

Bruno 3

第 5 型 耳前靜脈交會ニ加ハルモノ

望月	120例	♂	右3例	左2例	♀	右0例	左0例	計5例	4.1%
小河	60		1	0		0	0	1	1.6
計	180		4	2		0	0	6	3.6

第 6 型 翼狀靜脈ニ入ルモノ

望月	120例	♂	右1例	左1例	♀	右0例	左0例	計2例	1.6%
小河	60		0	0		0	0	0	0
計	180		1	1		0	0	2	1.1

第 7 型 同時ニ略々同大ノ2條ヲ有シテ2形ヲ具有シ計算重複セルモノ、(望月氏ハ第7型(イ、ロ、ハ)ヲ上記6型中ニ2重ニ算入セシモ余ハ(イ、ロ、ハ、ニ)ヲ獨特ノ型トシテ取扱ヒタルヲ以テ之ニ算入セズ)。

イ 第2型ト第4型ヲ有スルモノ

望月	120例	♂	右0例	左0例	♀	右2例	左1例	計3例	2.5%
小河	60		2	0		1	0	3	5
計	180		2	0		3	1	6	3.3

ロ 第2型ト第6型トヲ有スルモノ

望月	120例	♂	右1例	左0例	♀	右0例	左0例	計1例	0.8%
----	------	---	-----	-----	---	-----	-----	-----	------

小河	60	0	0	0	0	0	0
計	180	1	0	0	0	1	0.5

ハ 第3型ト第4型トヲ有スルモノ

望月	120例	♂	右0例	左1例	♀	右0例	左1例	計2例	1.6%
小河	60		0	0		0	0	0	0
計	180		0	1		0	1	2	1.1

ニ 第1型及第4型ヲ有スルモノ

望月	120例	♂	右0例	左0例	♀	右0例	左0例	計0例	0%
小河	60		2	0		1	0	3	5
計	180		2	0		1	0	3	1.6

第4章 後顔面靜脈

本靜脈ハ其ノ主流ヲ何レノ靜脈ヨリ受クルカ又如何ナル經過ヲ取ルカト云フコトハ耳前ニ於ケル靜脈ノ形態ニ依リテ種々ニ決定セラル。即チ淺顳顚靜脈、中顳顚靜脈、翼狀靜脈叢及ビ方向轉換ヲナシテ來タレル前顔面靜脈ノ4ヲ數ヘ更ニ外耳、耳下腺及ビ下顎關節等ヨリ來ル小靜脈ノ多數之ニ加ハリテ耳前ニ1團ノ叢ヲ形成スルヲ見ル(望月氏ハ之ヲ耳前靜脈交會ト名付ク)、依リテ此ノ形態ヲ分類シテ上記靜脈ノ消長及ビ開口狀態ヲ分類スレバ次ノ如シ。

耳前靜脈交會ノ形態

之ヲ A, B, C, D, 及ビ E ノ5型ニ分ツ。

第1A型 淺顳顚靜脈ト中顳顚靜脈トニヨリテ總顳顚靜脈ヲ作り之ニ翼狀靜脈叢加ハリテ茲ニ1ノ主幹ヲ形成シ外頸靜脈ノ分枝ヲナシタル後(時ニ或ハ此ノ分枝ヲナサズシテ)主幹ハ分枝ト同等或ハ以上ノ太サヲ以テ後顔面靜脈トナリテ(單獨ニ又ハ前顔面靜脈ト共ニ總顔面靜脈ヲ作りテ)内頸靜脈ニ注グ。

望月	120例	♂	右24例	左29例	♀	右2例	左7例	計62例	51.6%
小河	60		8	14		1	3	26	43.3
計	180		32	43		3	10	88	48.8

第2B型 外頸靜脈ノ分枝高キ位置ニ始マリ主幹ハソレヨリモ低キ所ニ於テ翼狀靜脈叢ヲ合セ下行ス。

望月	120例	♂	右9例	左1例	♀	右0例	左0例	計10例	8.3%
小河	60		0	1		0	0	1	1.6
計	180		9	2		0	0	11	6.1

第3C型 總顳顚靜脈ハ延長シテ外頸靜脈トナリ翼狀靜脈叢ハ延長シテ後顔面靜脈トナル。其ノ2流ノ間ハ1條或ハ2條ノ交通枝ヲ以テ連絡セラル。

望月	120例	♂	右4例	左6例	♀	右4例	左2例	計16例	13.3%
小河	60		11	5		5	6	27	45.0
計	180		15	11		9	8	43	23.8

望月氏ハ外頸靜脈ト後顔面靜脈トノ間ノ交通枝ハ常ニ2主流ヨリモ小ナリト記載セルモ余ハ2主流ヨリモ大ナル例ヲ見出シ又其ノ交通枝ハ望月氏ニ依レバ1條ノミナルカノ如ク記載セルモ余ハ2條ノ交通枝ヲ30例中17例ニ於テ見タリ。

第4D型 總顳顚靜脈及ビ翼狀靜脈叢ハ合シテ1主流ヲ作り延長シテ外頸靜脈或ハ前頸靜脈トナル。後顔面靜脈トシテハ此ノ際比較的小部分ノ分配ヲ受クルカ或ハ其ノ存在不明ナリ。

望月	120例	♂	右4例	左6例	♀	右9例	左6例	計25例	20.8%
----	------	---	-----	-----	---	-----	-----	------	-------

小河	60	1	1	3	0	5	8.3
計	180	5	7	12	6	30	16.6

第5E型 前記4型ノ何レヲ問ハズ之ニ前顔面靜脈ノ來リ加ハルモノ。

望月	120例	♂ 右 3例	左 2例	♀ 右 0例	左 0例	計 5例	4.1%
小河	60	1	0	0	0	1	1.6
計	180	4	2	0	0	6	3.3

耳前靜脈交會ヨリ出ズル諸靜脈

耳前靜脈交會ノ上記5型ヨリ發シテ血流ヲ心臟ニ向ツテ送ル靜脈ハ、前述ノ如ク後顔面靜脈、外頸靜脈及ビ前頸靜脈ノ3ヲ數フ。之等3者ハ3條共ニ同時ニ存在スル場合ハ甚ダ少ク、同時ニ2條ヲ存スル場合最モ多數ニシテ、又1條ヲ存スル場合アリ。而シテ1條ノ場合ニ在リテハ各靜脈各々開口ノ主流トナル場合、或ハ耳前靜脈交會ノ延長トモ見ルベキモノニシテ唯1條ノミ強ク存在ヲ主張スル場合アリ。其他同大ノ2條ヲ以テ血流ヲ折半スル場合、或ハ又3條ヲ存シ各靜脈ノ強弱ニ從ツテ種々ノ組合セヲ生ズル等幾多ノ形態ヲ存ス。之ヲ次ノ如ク分類ス。

第1 耳前靜脈交會ノ主流ヲ後顔面靜脈ニ送ル場合

望月	120例	♂ 右 27例	左 23例	♀ 右 3例	左 3例	計 56例	46.6%	兩側	♂ 15例	♀ 1例
小河	60	7	13	0	1	21	35.0		♂ 2	♀ 0
計	180	34	36	3	4	77	42.7			

コノ内耳靜脈交會ノ延長トモ見ルベキ血流全部ヲ後顔面靜脈ニ送ルモノ。

望月	120例	♂ 右 5例	左 2例	♀ 右 0例	左 2例	計 9例	7.5%
小河	60	1	2	0	0	3	5.0
計	180	6	4	0	2	12	6.6

第2 耳前靜脈交會ノ主流ヲ外頸靜脈ニ送ル場合

望月	120例	♂ 右 9例	左 7例	♀ 右 7例	左 7例	計 30例	25.0%	兩側	♂ 6例	♀ 5例
小河	60	9	3	6	1	19	31.6		♂ 1	♀ 1
計	180	18	10	13	8	49	27.2			

コノ内耳前靜脈交會ノ血流全部ヲ外頸靜脈ニ延長スル場合。

望月	120例	♂ 右 3例	左 2例	♀ 右 2例	左 3例	計 10例	8.3%
小河	60	0	0	0	0	0	0
計	180	3	2	2	3	10	5.5

第3 耳前靜脈交會ノ主流ヲ前頸靜脈ニ送ル場合。

望月	120例	♂ 右 1例	左 2例	♀ 右 1例	左 0例	計 4例	3.3%
小河	60	0	0	0	0	0	0
計	180	1	2	1	0	4	2.2

コノ内ノ例(望月)ニ於テハ耳前靜脈交會ノ延長其モノガ前頸靜脈ヲナスト見ルコトヲ得。

第4 後顔面靜脈ト外頸靜脈ト同大ニテ耳前靜脈交會ノ血流ヲ2分スル場合

望月	120例	♂ 右 8例	左 13例	♀ 右 4例	左 5例	計 30例	25.0%	兩側	♂ 2例	♀ 1例
小河	60	5	5	3	6	19	31.6		♂ 2	♀ 2
計	180	13	18	7	11	49	27.2			

第5 耳前靜脈交會ノ血流ヲ3分シテ後顔面靜脈、外頸靜脈及ビ前頸靜脈ノ3條ニ開口ヘル場合。

望月	120例	♂右1例	左0例	♀右2例	左0例	計3例	2.5%
小河	60	0	0	0	1	1	1.6
計	180	1	0	2	1	4	2.2

次=耳前靜脈交會ノ主流タルト支流タルトヲ問ハズ外頸動脈ノ經過ニ相當スル形態ヲ取りテ内頸靜脈ニ向フ所ノ靜脈、即チ後顔面靜脈トシテ存在スルモノ。

望月	120例	計108例	90%
小河	60	60	100
計	180	168	93.3

本後顔面靜脈ノ直徑2.0mmニ達セザル小靜脈カ或ハ其存在不明ノモノ。

望月	120例	計12例	10%
小河	60	0	0
計	180	12	6.6

コノ後顔面靜脈ハ二腹齶筋及ヒ莖狀舌骨筋トノ關係及ヒ前顔面靜脈ト合シテ總顔面靜脈ヲ作ルカ否カノ條件ニ依リテ4種ニ區別スルコトヲ得。

後顔面靜脈ノ開口第1

莖狀舌骨筋及ヒ二腹齶筋ノ内側ヲ經テ内頸靜脈ニ直接入ルモノ。

望月	120例	♂右22例	左32例	♀右10例	左8例	計72例	60.0%	兩側	♂20例	♀6例
小河	60	7	9	4	4	24	40.0		♂5	♀3
計	180	29	41	14	12	96	53.3			

コノ内2筋ノ間即チ莖狀舌骨筋ノ外側ニテ二腹齶筋ノ内側ヲ通過スルモノ。

望月	120例	計1例	0.8%
小河	60	0	0
計	180	1	0.5

後顔面靜脈ノ開口第2

前記2筋ノ内側ヲ通リテ後總顔面靜脈ヲ作ルカ或ハ前顔面靜脈ト殆ト同時ニ内頸靜脈ニ入ルモノ。

望月	120例	♂右13例	左9例	♀右2例	左3例	計27例	22.5%	兩側	♂5例	♀0例
小河	60	3	3	3	2	11	18.3		♂1	♀2
計	180	16	12	5	5	38	21.1			

後顔面靜脈ノ開口第3

2筋ノ外側ヲ下行シテ總顔面靜脈ヲ作ラズシテ直接内頸靜脈ニ入ルモノ。望月、小河之ヲ見ズ。

後顔面靜脈ノ開口第4

2筋ノ外側ヲ下行シテ前顔面靜脈ト共ニ總顔面靜脈ヲ作ルモノ。

望月	120例	♂右9例	左5例	♀右0例	左1例	計15例	12.5%	兩側	♂1例	♀0例
小河	60	6	5	0	1	12	20.0		♂4	
計	180	15	10	0	2	27	15.0			

上記後顔面靜脈ノ開口ニ於テハ2條或ハ3條ニ分レ同時ニ2種ノ形態ヲ有スルモノアリ。開口第1ト第2ノ形態ヲ共有スルモノ。

望月	120例	♂右1例	左3例	♀右0例	左0例	計4例	3.3%
小河	60	0	0	0	0	0	0
計	180	1	3	0	0	4	2.2

開口第2ト第4ノ形態ヲ共有スルモノ。

望月	120例	♂右 1例	左 0例	♀右 0例	左 1例	計 2例	1.6%
小河	60	0	1	0	0	1	1.6
計	180	1	1	0	1	3	1.6

望月氏記載ノ外ニ余ハ次ノ開口ヲ見タリ。

2筋ノ外側ヲ下行シテ前顔面靜脈ト共ニ前頭靜脈ニ移行スルモノ。

望月	120例	記載ヲ見ズ。					
小河	60	♂右 0例	左 0例	♀右 2例	左 2例	計 4例	6.6%
計	180	0	0	2	2	4	2.2

第1ト第4ノ形態ヲ有スルモノ。

望月	120例	記載ヲ見ズ。					
小河	60	♂右 4例	左 2例	♀右 0例	左 0例	計 6例	10 % 兩側 ♂1
計	180	4	2	0	0	6	3.3

第1ト第4ノ前頭靜脈ニ移行スルモノヲ共有スルモノ。

望月	120例						
小河	60	♂右 1例	左 1例	♀右 0例	左 0例	計 2例	3.3%
計	180	1	1	0	0	2	11

茲ニ注意スベキハ二腹鰭筋及ヒ莖狀舌骨筋ノ内側ヲ下行スル所ノ後顔面靜脈ハ外頸動脈ト平行シテ之ト相伴フ、而シテ此ノ際ニハ外頸動脈ニ沿フテ特別ノ靜脈ヲ見出サズ。之ニ反シテ後顔面靜脈ガ 2筋ノ外側ヲ走ル場合ニ於テハ(カノ前顔面靜脈以外ニ外鰭動脈ニ附隨シテ1或ハ2條ノ小靜脈ノ存在スルガ如ク)外頸動脈ニ沿フテ1或ハ2條ノ小靜脈ヲ見ルヲ通常トヘ。コノ事ハ 2筋ヲ堺トシテ走ル靜脈ニ對シテ今日迄等シク後顔面靜脈ノ名稱ヲ冠スルトハ雖モ兩者ハ各々其生物學上ノ意義ヲ異ニスルモノト云ハザルベカラズ。且ツ開口第1ノ場合ト開口第2ノ場合トヲ合スル時ハ 2筋ノ内側ヲ下行スル後顔面靜脈ハ望月ハ108例中99例、余ハ60例中35例ニ達ス。

望月	108例	99例	91.6%
小河	60	35	58.3
計	168	134	79.7

望月氏ハ重複セシモノモ算入シ、余ハ除外ス。

外側ヲ下行スル後顔面靜脈ハ之ニ反シテ次ノ如キ少数例ニ過ギズ。

望月	108例	15例	12.5%
小河	60	16	26.6
計	168	31	18.4

即チ 2筋ノ内側ヲ走ル後顔面靜脈ハ外頸動脈ニ附隨スル靜脈ニシテ動脈ト共ニ常ニ存在セントスル性質ヲ有シ、筋ノ外側ヲ走ル場合ニハ之ニ反シテ動脈ト關係ナク表層ヲ行ク靜脈トシテノ特性ノ1ヲ現スモノト信ズ。次ニ主副ヲ問ハズシテ耳前靜脈交會ヨリ起リテ外頸靜脈ト名付クベキ著明ノ分枝ノ存在セルモノヲ數フルニ次ノ如シ。

望月	120例	103例	90.8%
小河	60	57	95.0
計	180	166	92.2

此ノ分枝ヲ缺如セルカ又ハ存在不明ノモノ次ノ如シ。

望月	120例	♂右 6例	左 4例	♀右 0例	左 1例	計11例	9.1%
----	------	-------	------	-------	------	------	------

小河	60	1	2	0	0	3	5.0
計	180	7	6	0	1	14	7.7

耳前靜脈交會ヨリ出ズル前頸靜脈トシテ主副ヲ論ゼズ之ヲ有スルモノハ次ノ如シ。

望月	120例	右1例	左3例	♀右2例	左0例	計6例	5.0%
小河	60	0	0	0	0	0	0
計	180	1	3	2	0	6	3.3

以上記載セル種々ノ形態ヲ有スル3種ノ靜脈ガ如何ナル型ノ耳前靜脈交會ヨリ來ルカ即チ各別々ニ記載セル起始ト開口トノ組合セヲ明ラカニスルコトニ依リテ茲ニ初メテ各靜脈ノ終始ヲ決定スルコトヲ得。

第1 A型88例(望月62例, 小河26例)ヨリ發スル靜脈

A型ハ其ノ形態ノ性質上主流トシテ後顔面靜脈ヲ選ブコト最モ多シ。

望月	62例	右19例	左18例	♀右1例	左3例	計41例	66.1%
小河	26	5	10	0	0	15	57.6
計	88	24	28	1	3	56	63.6

而シテコノ56例中ニ耳前ノ延長ト見ルベキ後顔面靜脈ノ12例ガ含マルコトハ論フ俟タズ。次ニ分枝即チ外頸靜脈ガ直径ヲ増大シテ後顔面靜脈ト血流ヲ2等分スル形態ヲ取ルモノ。

望月	62例	右5例	左10例	♀右1例	左4例	計20例	32.2%
小河	26	3	4	2	2	11	42.3
計	88	8	14	3	6	31	35.2

分枝ガ外頸靜脈トナラズシテ胸鎖乳様筋ノ前縁ニ沿フテ下行シ前頸靜脈トナルモノ。

望月	62例	右0例	左1例	♀右0例	左0例	計1例	1.6%
小河	26	0	0	0	0	0	0
計	88	0	1	0	0	1	1.1

第2 B型11例(望月10例, 小河1例)ヨリ發スル靜脈

主流ヲ後顔面靜脈ニ送ル場合(即前述ノ耳前靜脈交會ヨリ出ヅル諸靜脈第1)ト組合フ場合。

望月	10例	右7例	左1例	♀右0例	左0例	計8例	80.0%
小河	1	0	1	0	0	1	100.0
計	11	7	2	0	0	9	81.8

分枝タル外頸靜脈ガ本幹タル後顔面靜脈ヨリモ大ナルモノ。

望月	10例	右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例	10.0%
小河	1	0	0	0	0	0	0
計	11	1	0	0	0	1	9.0

兩者同大ノモノ。

望月	10例	右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例	10.0%
小河	1	0	0	0	0	0	0
計	11	1	0	0	0	1	9.0

第3 C型43例(望月16例, 小河27例)ヨリ發スル靜脈

第1, 即チ後顔面靜脈ヲ大トスルモノ。

望月	16例	右1例	左3例	♀右1例	左0例	計5例	31.3%
----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-------

小河	27	2	2	0	0	4	14.8%
計	43	3	5	1	0	9	20.9

第2, 即チ外頸靜脈ヲ大トスルモノ。

望月	16例	♂右 2例	左 2例	♀右 0例	左 1例	計 5例	3.13%
小河	27	7	2	3	1	13	48.1
計	43	9	4	3	2	18	41.8

第3, 即チ後顔面靜脈ト外頸靜脈ト同大ノモノ。

望月	16例	♂右 1例	左 1例	♀右 3例	左 1例	計 6例	37.5%
小河	27	2	2	1	4	9	33.3
計	43	3	3	4	5	15	34.8

第4 D型30例(望月25例, 小河5例)ヨリ發スル靜脈

D型ハ其形態ノ性質上第1ヲ取ルコト無ク第2, 即チ外頸靜脈ニ主流ヲ送ル場合。

望月	25例	♂右 2例	左 4例	♀右 8例	左 6例	計 20例	80.0%
小河	5	1	1	3	0	5	100.0
計	30	3	5	11	6	25	83.3

又前述ノ耳前ノ延長ト見ルベキ外頸靜脈10例(望月10例, 小河0)ノ内1例(望月1例, 小河0)ハ不明型又1例(望月1例, 小河0)ハD型ヲ基本トセルE型ヨリ來リ, 他ハ凡テD型ヨリ來ル。残りノ5例(望月5例, 小河0)ノ内1例(望月1例, 小河0)ハ前頸靜脈ト同大ノ後顔面靜脈ヲ出ス。

望月	5例	♂右 1例	左 0例	♀右 0例	左 0例	計 1例
小河	0	0	0	0	0	0

他ハ凡テ前頸靜脈ニ主流ヲ送ル。

望月	5例	♂右 1例	左 2例	♀右 1例	左 0例	計 4例
小河	0	0	0	0	0	0

第5 E型6例(望月5例, 小河1例)ヨリ發スル靜脈

主流ヲ外頸靜脈ニ送ルモノ。

望月	5例	♂右 2例	左 1例	♀右 0例	左 0例	計 3例	60%
小河	1	0	0	0	0	0	0
計	6	2	1	0	0	3	50.0

後顔面靜脈ト外頸靜脈ニ2分スルモノ

望月	5例	♂左 1例	右 1例	♀左 0例	右 0例	計 2例	40.0%
小河	1	0	1	0	0	1	100.0
計	6	1	2	0	0	3	5.0

上記5型ノ外ニ耳前型不明ノモノ2例(望月2例, 小河0)中, 1例(望月1例, 小河0)ハ外頸靜脈ヲ以テ主流トシ他ハ後顔面靜脈ト同大ノ靜脈ヲ有ス。次ニ上記ノ逆ニ耳前ヨリ出デ來ル靜脈ノ種々ノ形態ガ耳前靜脈交會5型ノ何レヲ頂クカヲ數フレバ次ノ如シ。

第1ノ主流ヲ後顔面靜脈ニ送ル75例(望月54例, 小河21例)。

望月	54例中	41例A型	8例B型	5例C	D型ヨリハ來ラズ
小河	21	15	1	5	
計	75	56	9	10	

第2ノ主流ヲ外頸靜脈ニ送ル50例(望月32例, 小河18例)。

望月	32例中	22例D型ヨリ來ルモノ	5例C型	3例E型	1例B型及1例不明型
小河	18	5	13	0	0
計	50	27	18	3	2

第3ノ主流ヲ前頸靜脈ニ送ル4例(望月4例, 小河0)。

望月	4例中	4例D型ヨリ來ルモノ
小河	0	0
計	4	4

第4ノ外頸靜脈ト後顔面靜脈トヲ以テ2等分スル51例(望月30例, 小河21例)。

望月	30例中	20例A型	6例C型	2例E型	2例B型及ビ不明型ノモノ
小河	21	11	9	1	0
計	51	31	15	3	2

更ニ前記3種ノ開口状態ヲ有スル168例(望月108例, 小河60例)ノ後顔面靜脈ガ如何ナル型ノ耳前靜脈交會ヨリ來ルカヲ視ルニ第1ノ2筋ノ内側ヲ經テ直接内頸靜脈ニ入ル96例(望月72例, 小河24例)ハ第2表ニ示セルガ如クA型ヨリ來ルモノ43例, 44.7%(望月37例, 51.3%。小河6例, 25%)ニテ最も多ク且5型ノ凡テヨリ來ル。

又第2ノ2筋ノ内側ヲ經テ總顔面靜脈ヲ作ルモノ38例(望月27例, 小河11例)ニ於テハ第3表ニ示スガ如ク之亦A型ヨリ來ルモノ最も多ク23例, 60.5%(望月18例, 66.6%。小河5例, 45.4%)ヲ數ヘE型ヲ缺ク。最後ノ2筋ノ外側ヲ經テ總顔面靜脈ヲ作ルモノ27例(望月15例, 小河12例)ハA型ヨリ來ルモノ22例(望月14例, 小河8例)ニテB型ヨリ來ルモノハ1例(望月1例, 小河0)ヲ數フルノミ。

第 2 表

筋内側ヲ經テ直接内頸靜脈ニ入ルV. fac. Post.							
第 1	望 月			小 河			2 氏 總計
	右	左	計	右	左	計	
A型ヨリ來ル	15	22	37	2	4	6	43
B ”	4	1	5	0	0	0	5
C ”	6	9	15	7	8	15	30
D ”	5	6	11	1	1	2	13
E ”	2	2	4	0	1	1	5
計	32	40	72	10	14	24	96

第 3 表

筋内側ヲ經テ總顔面靜脈ヲ作ルV. fac. Post							
第 2	望 月			小 河			2 氏 總計
	右	左	計	右	左	計	
A型ヨリ來ル	9	9	18	2	3	5	23
B ”	4		4	0	1	1	5
C ”	2		2	2	2	4	6
D ”	1	1	2	1	0	1	3
E ”	0	0	0	0	0	0	0
計	16	10	26	5	6	11	37

「イタリ」人ト日本人トノ後顔面靜脈ノ開口ニ就テノ比較

Bruno ハ耳前ニ於ケル靜脈ノ形態ニ關シテハ何等新シキ所見ヲ有セズ, 顯頸靜脈ノ延長ハ即チ後顔面靜脈ナリトシテ之ガ外頸靜脈ニ行クカ又ハ内頸靜脈ニ向フカノ開口ノミニニ就テ觀察セリ。

1. 外頸靜脈トナルモノ

Bruno	55.0%
望月	120例中68例 56.6%
小河	60例中47例 78.2%
計	180例中115例 63.6%

コノ内(イ), Bruno ノ所謂「後顔面靜脈ガ單獨ニ外頸靜脈トナルモノ」余ノ所謂「耳前靜脈交會ノ主流ガ下行シテ起始1條ノ外頸靜脈トナルモノ」。

Bruno		23.0%
望月	120例中30例	25.0%
小河	60例中19例	31.6%
計	180例中49例	30.5%

(ロ)、前顔面靜脈ト合シテ外頸靜脈トナルモノ即チ總顔面靜脈ガ胸鎖乳様筋ノ外側ヲ下行スル形。

Bruno		32.0%
望月	120例中38例	31.6%
小河	60例中28例	46.6%
計	180例中66例	36.6%

2. 内頸靜脈ニ向フモノ。

Bruno		45.0%
望月	120例中37例	30.8%
小河	60例中19例	31.6%
計	180例中56例	31.1%

コノ内(イ) Bruno ノ所謂『單獨ニ内頸靜脈ニ入ルモノ』

Bruno		18.0%
望月	120例中22例	18.3%
小河	60例中7例	11.6%
計	180例中29例	16.1%

16.1%ナル望月及ビ小河ノ計ノ數字ハ所謂『耳前靜脈交會ノ主流』タルト『副流』タルトヲ間ハズ二腹髂筋及ビ莖狀舌骨筋ノ内側ヲ通りテ内頸靜脈ニ直接ニ入ル96例ノ内ヨリ其ノ主流ノミヲ選ビ數ヘタルモノナリ。

(ニ)總顔面靜脈トナリテ内頸靜脈ニ入ル

Bruno		27.0%
望月	120例中15例	12.5%
小河	60例中12例	20.0%
計	180例中27例	15.0%

但シ二腹髂筋及ビ莖狀舌骨筋ノ2筋ノ外側ヲ經テ前顔面靜脈ト合スルモノノミナリ。Brunoハ2筋ノ内側ヲ下行スル後顔面靜脈ニ依リテ作ラルル總顔面靜脈ヲ記載セズ。之ヲ注意セザルカ或ハ標本不明ノタメカ。

第5章 總顔面靜脈

前顔面靜脈及ビ後顔面靜脈ノ開口條下ニ記載セルガ如ク假令短カキ領域トハイヘ明カニ總顔面靜脈ヲ形成スルモノ66例, 36.6%(望月38例, 31.6%。小河28例, 46.6%)。ミナラズ2者殆ト同時ニ内頸靜脈ニ入ルモノ6例(望月3例, 小河3例)ヲ合セテ72例, 40%(望月41例, 43.1%。小河31例, 36.9%)ヲ數フルノミ, 即チ110例, 61.1%(望月79例, 65.9%。小河31例, 51.6%)ハ總顔面靜脈ヲ全く缺ク。而シテ注意スベキハ表層即チ二腹髂筋及莖狀舌骨筋ノ外側ヲ下行スル後顔面靜脈ハ直接内頸靜脈ニ入ルコトナクシテ悉ク前顔面靜脈ト合シテ總顔面靜脈ヲ作ルコトナリ。然レドモ其ノ數小ニシテ27例, 16.1%(望月15例, 12.5%。小河12例, 20%)ヲ數フ。39例, 21.6%(望月27例, 22.5%。小河12例, 20%)ハ2筋ノ内側ヲ下行スル後顔面靜脈ニ依リテ作ラル。之等ハ今日行ハル、一般外國教科書記載ノ事ト大ニ異ナル所ニシテ學者ノ注意ニ價ス。

第6章 外頸靜脈

外頸靜脈ノ起始

望月氏及ビ余ノ調査セシ180例ノ觀察ニ於テハ外頸靜脈ノ起始トシテ耳前ニ於ケル靜脈ハ重要ナル役ヲ成ス、然レドモ外頸靜脈ガ望月氏ノ所謂『耳前靜脈交會』即チ Luschka ノ所謂『後顔面靜脈ノ直接ノ延長』ナリトノ斷言ニ相當スル所ノ形態ガ通規トスルニ足ラザルモノニシテ望月氏ガ先ニ分類セシ耳前靜脈交會ノ5型ノ内第4D型ニ於ケル主流ガ外頸靜脈ノ主流トナル場合30例(望月25例, 小河5例)ノ小數ニ於テ之ヲ適用スルニ足ル。望月氏ハ胸鎖乳様筋ノ外側ヲ下行シテ外頸靜脈トナルベキ血流ノ起始トシテ次ノ6靜脈ヲ數フ。

1. 耳前靜脈交會
 2. 前顔面靜脈
 3. 頤下靜脈
 4. 後耳靜脈
 5. 耳下腺靜脈
 6. 前頸靜脈
- 之等靜脈ノ有無, 強弱及ビ其ノ集合狀態種々ニシテ之ヲ分類スルコト次ノ如シ。

第1. 耳前ノミヨリ主流ヲ起シ他ヨリノ流入枝ヲ有セザルモノ。

望月	120例	♂右15例	左17例	♀右4例	左2例	計38例	31.6%
小河	60	3	8	2	1	14	23.3
計	180	18	25	6	3	52	28.8

コノ内ニハ耳前ノ血流全部ヲ延長シテ外頸靜脈トナル場合10例(望月10例, 小河0例)存スルコトハ已ニ記載セリ。其ノ他ニ於テハ耳前ノ一部分ヲ受ケ入レテ以テ主幹トヘ。

第2. 耳前ヨリ來タルモノト前顔面靜脈或ハ頤下靜脈ヨリ來ルモノト兩者ヲ合セテ主幹トナスモノ。

望月	120例	♂右14例	左14例	♀右4例	左8例	計40例	33.3%
小河	60	10	7	4	4	25	41.6
計	180	24	21	8	12	65	36.1

而シテコノ際前顔面靜脈或ハ頤下靜脈ヨリ來ル靜脈ハ耳前ヨリ來ルモノヨリ小ナルカ略々同大ニテ之ヲ越ユル事アルモ其ノ差著シカラズ。65例(望月40例, 小河25例)中7例(望月3例, 小河4例)ニ於テハ前顔面靜脈ノ開口ガ2分セラレ1ハ前頸靜脈トナリ他ハ外頸靜脈ノ起始トナル。2例(望月1例, 小河1例)ニ於テハ前顔面靜脈ガ2分シテ1ハ顔面深ク巽狀靜脈叢ニ入り込ミ他ハ通常ノ經過ヲ取り下顎骨基底ヲ越エテ外頸靜脈ニ入ル。2例(望月2例, 小河)ニ於テハ頤下靜脈ヲ入ル。18例(望月4例, 小河14例)ニ於テハ主流トヘル2條(耳前ヨリ來ルモノト前顔面靜脈)ノ外ニ後耳靜脈ヲ入ル。即チ此ノ際ハ外頸靜脈ハ3條ノ起始ヲ有ス。

第3. 耳前ヨリ來ルモノト後耳靜脈或ハ耳下腺靜脈ヨリ來ルモノノ兩者ヲ以テ主幹トナスモノ。

望月	120例	♂右12例	左8例	♀右4例	左3例	計27例	22.6%
小河	60	7	3	2	4	16	26.6
計	180	19	11	6	7	43	23.8

後耳靜脈ニシテ大ナル直径ヲ有スルモノアリト雖モ何レモ耳前ヨリ來ル靜脈ヲ越ユルコト無ク之ト略同大ナリ。

46例(望月27例, 小河19例)中1例(望月1例, 小河0)ニ在リテハ後耳靜脈ハ外頸靜脈ニ延長シ耳前ヨリ來ルモノハ前頸靜脈ニ移行ス。而シテ之等外頸靜脈ト前頸靜脈トノ間ニ可ナリ太キ交通枝ヲ存ス。又1例(望月1例, 小河0)ニ在リテハ前頸靜脈ハ耳前ヨリ起リ分レテ2トナル, 其内大ナルモノハ同靜脈ノ延長ニシテ稍々小ナルモノハ外頸靜脈トナル, 而シテ外頸靜脈ハ耳下腺ヨリ來ル小ナル支流ヲ受ク。

第4. 耳前ヨリ主流ヲ發ス, 此主流ノ外ニ前頸靜脈ヨリ著明ノ流入枝ヲ容ル。

望月	120例	♂右2例	左4例	♀右1例	左1例	計8例	6.6%
小河	60	0	2	1	0	3	5.0

計 180 2 6 2 1 11 6.1

コノ内5例(望月3例, 小河2例)ハ前頸靜脈ト略同大ナ後耳靜脈, 或ハ前顔面靜脈ヲ入ル故ニ此際ハ3條ノ起始ヲ有ス。

第5. 3條ノ起始ヲ有スルモノヲ集ムレバ上記第2ノ17例(望月4例, 小河13例)及ビ第4ノ6例(望月3例, 小河3例)合計23例ヲ數フ。

第6. 外頸靜脈ヲ缺損スルモノ或ハ胸鎖乳様筋ノ外側面ニ於テノミ小靜脈トシテ僅ニ認メ得ルモノ(耳前ヨリ來ルヤ否ヤモ不明)或ハ存在不明ノモノ。

望月	120例	♂右 4例	左 2例	♀右 0例	左 1例	計 7例	5.8%
小河	60	1	1	0	0	2	3.3
計	180	5	3	0	1	9	5.0

コノ内1例(望月1例, 小河0)ニ於テハ全ク外頸靜脈ヲ缺キ後耳靜脈ハ胸鎖乳様筋ノ外側ヲ下行セズシテ耳下ヲ前進シ總顔面靜脈ト共ニ内頸靜脈ニ入ル。

之ヲ要スルニ上記外頸靜脈ノ起始トシテ種々ノ形態ヲ存スレドモ耳前靜脈交會ハ外頸靜脈ノ主幹ヲ出スコトニ於テハ重要ナル地位ヲ占ム, 然レドモ勿論之レノミヲ以テ外頸靜脈ノ發源地トハイヒ難シ。

外頸靜脈ノ經過

外頸靜脈ハ其起始ヲ2ヶ所或ハ3ヶ所ヨリ發スル時ハ屢々胸鎖乳様筋ノ外側面ニ於テ1條ニ合セズシテ2條ヲ以テ經過シ同筋ノ後縁或ハ之ヲ去リタル後ニ於テ合シテ1條トナル, 或ハ合セズシテ開口部ニ於ケル種々ノ形態ニ終ル。然レドモ未ダ著明ナル3條ヲ以テ經過スル例ヲ見ズ。耳前ヨリ發スル起始ハ胸鎖乳様筋ノ前縁ト交叉スルニ至ル迄耳下腺ニ依リテ包マレ他ノ起始靜脈ト共ニ胸鎖乳様筋外側面ニ於テハ其1條, 或ハ2條タルトニ論ナク共ニ常ニ淺潤筋膜及ビ潤頸筋々纖維ヨリ覆ハレ之ヲ越エテ更ニ皮下外層ニ出ズルモノ1例モ無シ。今胸鎖乳様筋外側面ニ於テ2條ヲ有スル例ヲ起始ニヨリテ次ノ如ク分類ス。

(1) 起始第2, 即チ耳前ヨリ來ル靜脈ト前顔面靜脈ヨリ來ル靜脈トノ2條ノ場合。

望月	120例	♂右 7例	左 6例	♀右 0例	左 1例	計 14例	11.6%
小河	60	4	4	2	2	12	20.0
計	180	11	10	2	3	26	14.4

(2) 起始第4, 即チ耳前ヨリ來ル靜脈ト前頸靜脈ヨリ來ル靜脈トノ2條ノ場合。

望月	120例	♂右 1例	左 5例	♀右 1例	左 0例	計 7例	5.8%
小河	60	1	3	2	0	6	10.0
計	180	2	8	3	0	13	7.2

(3) 1條ハ耳前ヨリ下リ來タリテ前顔面靜脈ト合シタルモノ, 他ノ1條ハ後耳靜脈ノ延長トシテ下行シタルモノナリ。

望月	120例	♂右 0例	左 1例	♀右 0例	左 0例	計 1例
小河	60	0	0	0	0	0
計	180	0	1	0	0	1

(4) 耳前ヨリ1條ノ起始ヲ有シテ下行スルモノナレドモ其經過中胸鎖乳様筋ノ外側面ニ於テ裂間(長サ約5cm)ヲ生ジ相接スル2條ヲ作ル。

望月	120例	♂右 0例	左 0例	♀右 1例	左 0例	計 1例
小河	60	1	0	1	0	2
計	180	1	0	2	0	3

其他胸鎖乳様筋ノ外側面ニ於テ初メヨリ1條ノ起始ヲ有シテ1條ノ經過ヲ成スモノニ就テハ云フベキコトナシ、起始2條ヲ有スル例ニ於テハ耳前ヨリ來ルモノガ前顔面靜脈或ハ前頸靜脈ヨリ來ル靜脈ト合スル位置ハ或ハ高ク胸鎖乳様筋ノ前縁ノ上ニ於テシ或ハ低ク同筋ノ後縁ノ下ニ於テス、又胸鎖乳様筋ノ外側面ヲ下行スルニ當リ1條ノ場合及ビ2條ガ筋ノ下縁ニ於テ低ク合シタル場合ハ經過直ニシテ且後方ニ在リ、筋ノ上縁ニ於テ高ク合シタルモノハ之ニ反シテ多少ノ彎曲ヲ呈シ且其位置稍々前方ニ在リ。

外頸靜脈ノ開口

外頸靜脈ノ開口スル幹靜脈ハ鎖骨下靜脈及内頸靜脈ノ兩者ヲ出デズ。

第1. 外頸靜脈ガ内頸靜脈ニ開口スル際ニハ初メヨリ1條ノ經過ヲ取ルモノハ勿論、2條ヲ以テ下行スル場合ニ於テモ必ズ1條ニ合シテ以テ胸鎖乳様筋ノ中央以下ノ高サニ於テコノ筋ノ後縁ヲ過グルヤ直チニ内轉シテ内頸靜脈ニ注グ、而シテ開口部ニ於テ分裂シテ2條トナリ或ハ鳥ヲ形成スル等ノコトナシ。

望月	120例	♂右 5例	左 6例	♀右 1例	左 3例	計 15例	12.5%
小河	60	4	2	1	1	8	13.3
計	180	9	8	2	4	23	12.7

外頸靜脈ガ2枝ニ分レ1枝ハ鎖骨下靜脈他ハ内頸靜脈ニ入ルモノ。Brunoノ調査成績ト比較スレバ次ノ如シ。

Bruno	100例	10%
望月	120例	0%
小河	60例中3例	5%

第2. 鎖骨下靜脈ニ入ル場合ハ前者ト異ナリ外頸靜脈ハ分裂シテ2條トナリ3條トナリ或ハ鳥ヲ形成シ又肩胛舌骨筋ノ内側ヲ經、或ハ外側ヲ走リ一方鎖骨上窩ノ他ノ靜脈ノ参加スルアリテ複雑ナル形態ヲ現ス、而シテ外頸靜脈ノ鎖骨下靜脈ニ入ル場合ハ殆ド常ニ鎖骨下靜脈ト内頸靜脈トノ會合部或ハ之ニ甚ダ近ク鎖骨下靜脈ニ開口シ會合部ヲ去ルコト遠キモノヲ見ズ。又前記僧帽筋ノ胸鎖乳様筋ニ接近交通セル筋變種ノ場合鎖骨ト僧帽筋附着處トノ間隙ヲ深部ニ入ル外頸靜脈ハ内頸靜脈ニ入ラズシテ常ニ鎖骨下靜脈ニ開口ヲナヘ。今之等ノ部類ニ屬スル155例(望月103例、小河52例)ノ外頸靜脈開口部ノ形態ヲ分類スレバ次ノ如シ。

其1. 主幹ハ分裂セズ1脚ヲ以テ肩胛舌骨筋ノ外側ヲ過グルモノ。

望月	120例	♂右 6例	左 6例	♀右 4例	左 6例	計 22例	18.3%
小河	44	5	5	5	4	19	43.1
計	164	11	11	9	10	41	25.0

コノ内1例(望月1例小河0)ハ外頸靜脈甚ダ小ニシテ頸横靜脈ノ媒介ニヨリテ鎖骨下靜脈ニ入ル。

其2. 主幹ハ分裂セズ1脚ヲ以テ肩胛舌骨筋ノ内側ヲ通ルモノ。

望月	120例	♂右 9例	左 13例	♀右 0例	左 0例	計 22例	18.3%
小河	44	3	1	0	0	4	9.0
計	164	12	14	0	0	26	15.8

其3. 分裂シタル2脚ヲ以テ肩胛舌骨筋ヲ内外ヨリ挟ムモノ、此際内脚ハ會合部、外脚ハ之ヨリ多少離レテ鎖骨靜脈ニ入ル。

望月	120例	♂右 10例	左 5例	♀右 7例	左 2例	計 24例	20.0%
小河	44	1	1	2	0	4	9.0
計	164	11	6	9	2	28	17.0

其4. 分裂シタル2脚ハ肩胛舌骨筋ヲ挟マズシテ筋ノ外側ニ在リテ或ハ再ビ合シ或ハ同時ニ開口シテ島ヲ形成スルモノ。

コノ場合、島ヲ圍ム2脚ヲ前弓ト後弓トノ2ツニ分ツ。

望月	120例	♂右15例	左15例	♀右3例	左2例	計35例	29.1%
小河	44	1	4	1	3	9	20.4
計	164	16	19	4	5	44	26.8

以上第1及ビ第2ノ各種ヲ合セテ162例(望月118例, 小河44)トナル。即チ7例(望月5例, 小河2例)ハ先ニ外頸靜脈トシテ胸鎖乳様筋ノ外側面ニ於テ小靜脈トシテ辛ウジテ認メ得ルト見做シタルモノナレドモ開口部ニ於テハ明カニ其形態ヲ觀察シ得タルモノナリ。又2例(望月2例, 小河0)ハ全ク不明ニシテ上記分類ニ入ラズ。

上記ノ分類例數ヲ通覽スルニ外頸靜脈ノ開口トシテハ鎖骨下靜脈或ハ之ト内頸靜脈トノ會合部ヲ以テスルヲ通則トスベク且ツコノ場合主幹1脚ヲ以テ入ルモノヨリモ分裂シテ2脚トナリ或ハ島ヲ形成シテ開口スルモノヲ多數トス。即チ72例(望月59例, 小河13例), 全數ノ43.9%(望月49.1%, 小河31.8%)ヲ數フ。鎖骨下靜脈ニ入ルモノ, 66.6%(望月57.1%, 小河29.5%)ヲ數フ。又同上1脚ノ場合及ビ2脚ノ場合ヲ通ジテ肩胛舌骨筋ノ内側ヲ過グルモノ54例(望月46例, 小河8例)即チ全數ノ32.9%(望月38.3%, 小河18.1%)アリ。之注意スベキコトナリ。然レドモ鎖骨下靜脈ニ入ルモノノ全體ヲ通ジテ外頸靜脈ハ肩胛舌骨筋ノ外側ヲ過グルヲ多數トス。

113例(望月81例, 67.5%。小河32例, 72.6%)68.8%アリ。

外頸靜脈全體トシテノ形態

前記起始, 經過及ビ開口ヲ通ジテ全體トシテノ外頸靜脈ノ形態ヲ通覽スルニ起始, 經過及ビ開口各々ノ形態ノ組合セニ依リテ甚ダ多數ノ種類ヲ區別スルコトヲ得。而シテ左右合セテ180例ノ内全ク同様ノ形態ヲ有スル例ハ甚ダ少ク, 標本ヲ異ニスル場合及ビ同一標本, 即チ左右對稱ノ場合ヲ合セテ最モ多數ノ場合ニ於テスラ20例, 11.1%(望月13例, 10.8%。小河7例, 11.6%)ヲ越エズ。望月氏ノ31種ノ單簡ナル模型ヲ開口形態ニ從ツテ分類スル時ハ次ノ如シ。

第 1. 内頸靜脈ニ入ルモノノ形態

1. 耳前ヨリ發スル1條ノミヲ有スルモノ。
望月 ♂右1例 左2例 ♀右0例 左1例 計4例
小河 0 1 0 0 1
計 1 3 0 1 5
2. 耳前及ビ後耳殼靜脈ヨリノ2起始ヲ合シテ1條ヲ以テ下行スルモノ。
望月 ♂右2例 左1例 ♀右0例 左1例 計4例 兩側♂1例
小河 0 0 1 1 2 ♀1例
計 2 1 1 2 6
3. 耳前ト前顔面靜脈ヨリノ2ヲ合シテ1條ヲ以テ下行スルモノ。
望月 ♂右2例 左0例 ♀右0例 左1例 計3例 兩側♂1例

- | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 小河 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 計 | 4 | 1 | 0 | 1 | 6 |
4. 胸鎖乳様筋外側面ニ於テ耳前及ビ前顔面靜脈ヨリノ2條ヲ有スルモノ。
望月 ♂右0例 左1例 ♀右0例 左0例 計1例
小河 2 1 0 0 3
計 2 2 0 0 4
 5. 胸鎖乳様筋外側面ニ於テ耳前及ビ前顔面靜脈ヨリ發スル1條ト後耳靜脈ノ下行スル1條トノ2條ヲ有スルモノ。
望月 ♂右0例 左1例 ♀右0例 左0例 計1例
小河 0 0 0 0 0
計 0 1 0 0 1

6. 前頸靜脈ヨリ發スル1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1

7. 耳前ヨリ來ル1條ノ外ニ前頸靜脈ヨリ發シテ鎖骨下靜脈ニ入ル1形ヲ具有スルモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1

第2. 鎖骨下靜脈ニ入ル外頸靜脈ニシテ開口部ニ於テ分裂セズ1脚ヲ以テ肩胛舌骨筋ノ外側ヲ過グルモノノ形態。

1) 耳前ヨリノ1條ノミヲ有スルモノ。

望月	♂右3例	左0例	♀右1例	左1例	計5例
小河	2	2	0	1	5
計	5	2	1	2	10

2) 耳前ト後耳殼靜脈ヨリノ2起始ノ合シタル1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右0例	左2例	♀右1例	左2例	計5例	兩側♀1例
小河	4	1	0	2	7	♂1
計	4	3	1	4	12	

3) 耳前ト前顔面靜脈ヨリノ2起始ノ合シタル1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右1例	左2例	計4例	兩側♀1例
小河	2	0	1	0	3	
計	2	1	2	2	7	

4) 胸鎖乳樣筋外側面ニ於テ耳前ト前顔面靜脈ヨリ來ル2條ヲ有スルモノ。

望月	♂右3例	左1例	♀右0例	左2例	計6例	兩側♂1例
小河	1	1	1	1	4	♂1
計	4	2	1	3	10	

5) 耳前ト後耳殼靜脈トヨリ來ル1條ト前頸靜脈ヨリ發スル1條トノ2條ヲ胸鎖乳樣筋外側面ニ於テ有スルモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右1例	左1例	計3例
小河	0	0	1	0	1
計	0	1	2	1	4

第3. 前記ニ反シテ肩胛舌骨筋ノ内側ヲ過グルモノノ形態。

1) 耳前ヨリ1條ノミヲ有スルモノ。

望月	♂右1例	左4例	♀右0例	左0例	計5例
----	------	-----	------	-----	-----

小河	1	0	0	0	1
計	2	4	0	0	6

2) 耳前ト後耳殼靜脈ヨリノ2起始ノ合シタル1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右5例	左1例	♀右0例	左0例	計6例
小河	1	0	0	0	1
計	6	1	0	0	7

3) 耳前ト前顔面靜脈ヨリノ2起始ノ合シタル1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右0例	左4例	♀右0例	左0例	計4例
小河	0	0	0	0	0
計	0	4	0	0	4

4) 胸鎖乳樣筋外側面ニ於テ耳前ト前顔面靜脈ヨリノ2條ヲ有スルモノ。

望月	♂右1例	左2例	♀右0例	左0例	計3例
小河	0	1	0	0	1
計	1	3	0	0	4

5) 胸鎖乳樣筋外側面ニ於テ耳前ト後耳殼靜脈ヨリ來ル1條ト前頸靜脈ヨリ發スル1條トノ2條ヲ有スルモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1

6) 胸鎖乳樣筋外側面ニ於テ耳前ト前頸靜脈トヨリ來ル2條ヲ有スルモノ。

望月	♂右1例	左1例	♀右0例	左0例	計2例
小河	0	0	0	0	0
計	1	1	0	0	2

7) 靜脈小ニシテ其ノ開口部ニ於テノミ明瞭ナル形態ヲ認メ得ルモノ。

望月	♂右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	1

第4. 前同様鎖骨下靜脈ニ入ル外頸靜脈ニシテ分裂シタル2脚ハ肩胛舌骨筋ノ内外ヨリ挟ムモノノ形態。

1) 耳前ヨリノ起始1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右7例	左3例	♀右2例	左1例	計13例	兩側♂1例
小河	1	1	1	0	3	♀1
計	8	4	3	1	16	

2) 耳前ト後耳殼靜脈トヨリノ2起始ノ合シタル

1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右2例	左1例	♀右3例	左0例	計6例
小河	0	0	0	0	0
計	2	1	3	0	6

3) 前者ノ起始=更=前顔面靜脈ノ加ハリタルモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右2例	左0例	計3例
小河	0	0	0	0	0
計	0	1	2	0	3

4) 耳前ト前顔面靜脈ヨリノ2起始ノ合シタル1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右0例	左0例	♀右0例	左1例	計1例
小河	0	0	1	0	1
計	0	0	1	1	2

5) 後耳殼靜脈ヨリ小靜脈ノ來ルモノ。

望月	♂右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	1

第5. 分裂シタル2脚ハ再ビ合シテ島ヲ形成シ肩胛舌骨筋ノ外側ヲ通リテ鎖骨下靜脈=入ル外頸靜脈ノ形態。

1) 耳前ヨリノ起始1條ヲ有スルモノ。

望月	♂右4例	左9例	♀右0例	左0例	計13例	兩側♂1例
小河	1	0	0	0	1	
計	5	9	0	0	14	

2) 耳前ト前顔面靜脈ヨリ來ルモノノ1條=合シテ下行スルモノ。

望月	♂右4例	左4例	♀右2例	左2例	計12例	兩側♂1例
小河	1	1	0	2	4	♀1
計	5	5	2	4	16	

3) 胸鎖乳樣筋外側面=於テ耳前ト前顔面靜脈ヨリ來ル2條ヲ有スルモノ。

望月	♂右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	1	1
計	1	0	0	1	2

4) 耳前ト後耳殼靜脈ヨリ來ルモノノ1條=合シテ下行スルモノ。

望月	♂右3例	左1例	♀右1例	左0例	計5例
小河	0	0	0	0	0
計	3	1	1	0	5

5) 胸鎖乳樣筋外側面=於テ前者ノ如キ起始ヲ有スル1條ノ外=更=前顔面靜脈ヨリ來ル1條ト即チ2條ヲ有スルモノ。

望月	♂右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	1	1
計	1	0	0	1	2

6) 耳前ト前頸靜脈ヨリ來ルモノノ1條=合シテ下行スルモノ。

望月	♂右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例
小河	1	0	0	0	1
計	2	0	0	0	2

7) 耳前及前顔面靜脈ヨリノ起始ハ1條=合セズシテ網眼ヲ形成スルモノ。

望月	♂右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	1

8) 前頸靜脈ヨリ來ル外=耳前ヨリ來リテ直接内頸靜脈=入リテ2形ヲ有スルモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1

以上ノ外2外頸靜脈ヲ全ク缺クモノ。

望月	♂右0例	左0例	♀右0例	左1例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	0	0	0	1	1

外頸靜脈有無不明ノモノ。

望月	♂右0例	左1例	♀右0例	左0例	計1例
小河	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1

又上記第1ノ7ハ第5ノ8ト重複ス。

Bruno ノ外頸靜脈=於ケル調査成績トノ比較

A 外頸靜脈ノ起始

1) 耳前ノミヨリ來ル1條	小河	60	17	28.3%	
Bruno	23.0%	計	180	47	26.1%
望月	120	30	25.0%	2) 耳前ト前顔面靜脈ヨリノ2條ヲ合ス。	

Bruno			32.0%	3) 前顔面靜脈ト後耳殼靜脈ノ2條ヲ合ス。
望月	120	38	31.6%	Bruno 32.0% 望月, 小河本例ヲ見ズ。
小河	60	14	23.3%	4) 後耳殼靜脈(或ハ後頭靜脈)ノ延長。
計	180	52	28.8%	Bruno 6% 望月, 小河本例ヲ見ズ。

B. 外頸靜脈ノ開口

1) 鎖骨下靜脈=入ル。(望月氏及ビ余ノ場合=於テハ鎖骨下靜脈ト内頸靜脈トノ會合部=入ルモノヲ含ム。)	望月	120	15	12.5%
	小河	60	8	13.3%
	計	180	23	12.7%

Bruno			75.0%	3) 前顔面靜脈=入ル。
望月	120	105	87.5%	Bruno 5%, 望月, 小河本例ヲ見ズ。
小河	60	52	86.6%	4) 開口ノ際叢ヲ作ルモノ。
計	180	157	87.2%	Bruno 4%, 望月 ?, 小河 ?。

2) 2枝=分レ1枝ハ鎖骨下靜脈他ハ内頸靜脈=入ル。	望月氏及ビ余ノ所見=於テハ島ヲ作ルモノ。2脚ヲ以テ肩胛舌骨筋ヲ挟ムモノ。島ノ後弓=後頸皮下靜脈, 頸横靜脈及肩胛横靜脈ノ入ル場合。2脚ノ筋内側脚=後頸皮下靜脈及頸横靜脈ノ入ル場合。2脚ノ筋外側脚=肩胛横靜脈ノ入ル場合等種々ノ形態アリ。		
Bruno	10.0%		
望月	120	0	0.0%
小河	60	3	5.0%
計	180	3	1.6%

但シ望月, 小河=於テハ内頸靜脈=全流ヲ注グモノ。
5) 鎖骨ヲ越エテ頭靜脈ト吻合ヲ營ムモノ。
Bruno 90%, 望月 3.3%, 小河 不明。

血管ト神經トノ關係

A. 迷走神經ト總頸動脈及ビ内頸靜脈トノ關係

1) 迷走神經ノ主幹ガ甲狀軟骨ノ高サヨリ胸腔内=入ルマデ兩血管ノ前方ヲ下行スルモノ。

望月	120例	♂右 1例	左 1例	♀右 0例	左 0例	計 2例	1.6%
小河	60	0	2	0	0	2	3.3
計	180	1	3	0	0	4	2.2

2) 迷走神經ノ主幹ガ甲狀腺下部ノ高サヨリ著明=前方=現ルルモノ。

望月	120例	♂右 3例	左 3例	♀右 2例	左 1例	計 9例	7.5%
小河	60	2	1	0	1	4	6.6
計	180	5	4	2	2	13	7.2

B. 舌下神經ト總頸動脈及ビ内頸靜脈トノ關係

本關係=就テハ望月氏ハ調査セザリキ。余ノ調査セシ60例=ヨレバ舌下神經ハ總テ總頸動脈ノ分岐部近ク=於テ總頸動脈ト内頸靜脈トノ間ヲ經過シテ(即チ總頸動脈ノ外面=シテ内頸靜脈ノ内面ヲ經過ス)二腹頸筋ノ下縁=沿フテ横走セリ。

第7章 前頸靜脈

起 始

小靜脈ヲ以テ同時=2ヶ所或ハ3ヶ所ヨリ源ヲ發スルヲ以テ普通ナリト雖ドモ煩雜ヲ避ケ主幹ノミ=就イテ觀察分類セリ。

第1. 頤及ビ頤下部ノ表層ヨリ來ルモノ。

望月	120例	♂右12例	左11例	♀右1例	左3例	計27例	22.5%
小河	48	7	4	0	2	13	27.0
計	168	19	15	1	5	40	23.8

第2. 齶下腺或ハ頤下靜脈ヨリ來ルモノ。

望月	120例	♂右9例	左9例	♀右3例	左2例	計23例	19.1%
小河	48	3	3	2	0	8	16.6
計	168	12	12	5	2	31	18.5

Bruno (前頸靜脈ノ起始第1, 第2兩者ノ和) 97.0%

第3. 前顔面靜脈ヨリ來ルモノ。

望月	120例	♂右2例	左8例	♀右7例	左3例	計20例	16.6%
小河	48	4	4	2	2	12	25.0
計	168	6	12	9	5	32	19.0

Bruno 3.0%

第4. 耳前靜脈交會ヨリ來ルモノ。

望月	120例	♂右2例	左2例	♀右5例	左0例	計9例	7.5%
小河	48	3	5	1	3	12	25.0
計	168	5	7	6	3	21	12.5

コノ内4例(望月4例, 小河0)ハ耳前靜脈ノ主流ヲ延長セル形態ヲ有スルコト前述ノ如シ。又17例(望月5例, 小河12例)ハ耳前ヨリ來ル後顔面靜脈或ハ外頸靜脈ノ一部分ヲ取り容レテ以テ主幹トス。

Bruno 記載ナシ

第5. 舌骨角ノ附近深部ヨリ來ルモノ。

望月	120例	♂右11例	左5例	♀右0例	左0例	計16例	13.3%
小河	48	0	1	2	0	3	6.2
計	168	11	6	2	0	19	11.3

Bruno 記載ナシ

第6. 前頸靜脈ノ横行スル下脚ヲ僅ニ認メ得ルカ或ハ存在不明ノモノ。

望月	120例	♂右4例	左10例	♀右2例	左9例	計25例	20.8%
小河	60	5	5	1	1	12	20.0
計	180	9	15	3	10	37	20.5

Bruno 記載ナシ

經 過

前頸靜脈ハ上脚即チ下行部ト下脚即チ横行部トノ2部分ニ分ツコトヲ得。下行部, 起始ヲ耳前靜脈交會ヨリ取ル時ハ其ノ經過ハ斜傾シ且胸鎖乳様筋ノ前縁ニ接着シ或ハ離レテ之ト平行ニ下走ス, 其他ノ起始ヲ有スルモノハ多ク正中線ニ向ツテ近ヅキ種々ノ高サヨリ直下シ或ハ紆曲下行ス頤及頤下部ノ表層ヨリ表ルモノハ潤頸筋ノ外側皮下ヲ走ルコトアレドモ僅少ノ領域ニ過ギズシテ大部分ハ潤頸筋及淺頸筋膜ニ依リテ被ハル。茲ニ注意スベキハ左右ノ胸鎖乳様筋ニ依リテ境セラル、前頸部ニ於テ前頸靜脈ノ主流タルト副流タルヲ問ハズ著明ナル太サ(直徑3—8mm)ヲ有スル靜脈アリ, 今其存在スル數ニ依リテ次ノ3種ニ區別ス。

イ. 1條ノミヲ有スル例

望月	60體	5體	8.3%
小河	24	0	0%
計	84	5	5.8%

ロ. 2條ヲ有スル例

望月	60體	10體	16.6%
小河	24	10	41.6%
計	84	20	23.8%

ハ. 3條ヲ有スル例

望月	60體	3體	5%
小河	24	12	50%
計	84	15	17.8%

ニ. 4條ヲ有スル例

望月	60體	0體	0%
小河	24	2	8.3%
計	84	2	2.3%

横行部、垂直或ハ斜傾シテ下行セル下行部ハ頰窩ニ於テ直角或ハ鋭角ヲ以テ曲折シ横行部トナリテ胸鎖乳様筋ノ内側或ハ鎖骨ノ後方ニ於テ其ノ開口ヲ求ム。而シ胸鎖乳様筋ノ外側ヲ横行スルモノヲ見ズ。

前頸靜脈ノ開口

1) 外頸靜脈ニ入ルカ、又ハ外頸靜脈ト同時ニ鎖骨下靜脈(或ハ之ト内頸靜脈トノ會合部)ニ入ル場合。

望月	120例					103例	85.8%
小河	50	♂右16例	左17例	♀右7例	左7例	計47	94.0
計	170					150	88.3
Bruno							25

2) 肩胛横靜脈ト合シテ同時ニ鎖骨下靜脈ニ入ル場合。

望月	120例	♂右3例	左0例	♀右1例	左0例	計4例
小河	50	2	1	0	0	3
計	170	5	1	1	0	7

3) 1側ノ前頸靜脈カ他側ノ前頸靜脈ノ横行部ニ延長開口スル場合。

望月	120例	♂右0例	左2例	♀右0例	左0例	計2例
小河	50	0	0	0	0	0
計	170	0	2	0	0	2

4) 前頸靜脈ノ一部ハ胸骨舌骨筋ヲ貫通シテ下甲状腺靜脈ト合シテ左右無名靜脈ノ合流部ニ入ル場合。

望月	120例	♂右1例	左0例	♀右0例	左0例	計1例
小河	50	0	0	0	0	0
計	170	1	0	0	0	1

5) 無名靜脈ニ入ル場合。

Bruno 25%, 望月 0%, 小河 0%。

6) 不明ノモノ。

望月	60例					計5例
----	-----	--	--	--	--	-----

小河	30	5
計	90	10

第 8 章 頸正中靜脈

頸正中靜脈ハ一般ニ前頸靜脈ト區別困難ナル場合多シト記載アルモ余ハ其起始、經過、開口ニ就テハ比較的明確ニ調査スルコトヲ得タリ。

起 始

1) 頤下部表層ヨリ來リ直チニ下行スルモノ。

望 月	記載ヲ見ズ			
小 河	21體	♂ 12	♀ 6	計 18體

2) 齶下腺及ヒ頤下靜脈ヨリ始マリ舌骨或ハ甲状軟骨ノ前方ニ來リテ曲折下行スルモノ。

望 月	記載ヲ見ズ			
小 河	21體	♂ 2	♀ 1	計 3體

3) 不明ノモノ。

望 月	記載ヲ見ズ			
小 河	30體	♂ 7	♀ 2	計 9體

經 過

1) 正シク前頸部正中線上ヲ直下スルモノ。

望 月	60體	♂ 0	♀ 0	計 0體
小 河	23	0	0	0
計	83	0	0	0

2) 頸正中靜脈ヲ缺損セルモノ(不明ノモノ)。

望 月	67體	♂ 27	♀ 10	計 37體
小 河	23	1	0	1
計	83	28	10	38

3) 右側ニ偏スルモノ。

望 月	60體	♂ 13	♀ 3	計 16體
小 河	23	11	4	15
計	83	24	7	31

4) 左側ニ偏スルモノ。

望 月	60體	♂ 5	♀ 2	計 7體
小 河	23	5	2	7
計	83	10	4	14

頸正中靜脈ノ開口ハ望月氏ト同様ニ頸靜脈弓ニ入ルモノ 1 例モナシ。前頸靜脈ノ存スル場合ハ常ニ之ト合シ其存セザル場合直接横行シテ外頸靜脈或ハ鎖骨下靜脈ニ入ル。

第 9 章 頸靜脈弓

頸正中靜脈或ハ前頸靜脈ハ各々外頸靜脈或ハ其他ノ靜脈ニ開口ヲ求メ、左右ノ連絡トシテ頸正中靜脈或ハ前頸靜脈ガ曲折シテ横行セントスル角ニ於テ種々ノ形態ヲ有スル交通枝ヲ置ク、即チ望月氏ハ B. N. A. ノ定義ニ從ヒテ左右ノ前頸靜脈ヲ連絡スル靜脈ヲ以テ頸靜脈弓トシ之

ヲ次ノ如ク分類セリ。

第1. 著明ノ連絡ヲナスモノ。

望月	60體	♂ 13	♀ 6	計19體	31.6%
小河	24	16	8	24	100.0%
計	84	29	14	43	51.1%

第2. 小靜脈ヲ以テ僅カニ連絡スルモノ。

望月	60體	♂ 23	♀ 8	計31體	51.6%
小河	24	0	0	0	0%
計	84	23	8	31	36.9%

第3. 存在不明或ハ全ク之ヲ缺クモノ。

望月	60體	♂ 9	♀ 1	計10體	
小河	30	5	1	6	
計	90	14	2	16	

即チ頸靜脈弓トシテハ上記第1及ビ第2ヲ通ジテ左右兎ニ角連絡セルヲ以テ通則トスレドモ著明ニ現ルモノハ43體(望月19, 小河24)51.1%ヲ數フ。

第10章 内頸靜脈

望月氏ハ頸動脈窩ニ於テ内頸靜脈ニ内頸靜脈把手ノ存在スルコトヲ發見セリ。其把手ノ上脚ハ總顔面靜脈或ハ後顔面靜脈ノ開口部又ハ内頸靜脈自身ヨリ始マリ下脚ハ舌骨乃至喉頭環狀軟骨或ハソレヨリモ以下ノ高サニ於テ内頸靜脈ニ結ビ茲ニ裂隙或ハ橢圓形ノ島或ハ環ヲ形成ス。而シテコノ把手ハ通常舌骨靜脈, 舌下神經隨行靜脈, 上甲狀腺靜脈, 胸鎖乳樣靜脈, 後頭靜脈等ノ諸靜脈ヲ收容レテ内頸靜脈ニ送ル仲繼ノ役ヲナス。今把手ヲ次ノ如ク分類ス。

第1 前顔面靜脈ガ頸動脈窩ニ於テ内頸靜脈ニ入ラズシテ他ノ道ヲ行ク場合ニテ把手ノ上脚ハ後顔面靜脈ノ開口部或ハ之ニ近キ内頸靜脈ヨリ起ルモノ。

望月	120例	♂ 右15例	左20例	♀ 右6例	左7例	計48例	40.0%	兩側♂ 12例	♀ 2例
小河	60	5	4	2	1	12	20.0	♂ 2	♀ 0
計	180	20	24	8	8	60	33.3		

第2 前顔面靜脈ガ直接又ハ總顔面靜脈ヲ經テ内頸靜脈ニ入ル場合ニテ把手ノ上脚ハ總顔面靜脈或ハ後顔面靜脈ヨリ起ルモノ。

望月	120例	♂ 右21例	左21例	♀ 右4例	左4例	計50例	41.6%	兩側♂ 14例	♀ 2例
小河	60	7	5	3	1	16	26.6	♂ 4	♀ 1
計	180	28	26	7	5	66	36.6		

第3 把手ヲ缺クカ或ハ島若シクハ環ヲ存スレドモ上記ノ如ク模形的ニ現レザルモノ。

望月	120例	♂ 右9例	左4例	♀ 右5例	左4例	計22例	18.3%	兩側不明	
小河	60	9	12	4	7	32	53.3	♂ 7例	♀ 3例
計	180	18	16	9	11	54	33.3		

上記把手ハ通常外頸動脈及其分枝動脈並ビニ舌下神經縮ノタメ外側(表層)ニ位ス。然レドモ上甲狀腺動脈, 舌下神經等把手ニ依リテ生ズル環ヲ出入スルコトアリ。其ノ頻度ヲ示セバ次ノ如シ。

望月	98例	♂右1例	左2例	♀右0例	左0例	計3例	
小河	27	0	3	1	1	5	血管
		1	0	1	0	2	神經
計	125	2	5	2	1	10	

第11章 上中及下甲狀腺靜脈

甲狀腺靜脈叢ヨリ發スル所謂甲狀腺靜脈ハ多數アリテ左右對ヲナス靜脈2(上及び中甲狀腺靜脈)ト正中ニ在リテ對ヲナサル靜脈1(下甲狀腺靜脈)トニ分ツ。

上 甲 狀 腺 靜 脈

甲狀腺ノ上部ヨリ上行スル靜脈ニシテ常ニ同名ノ動脈ト相伴フ。其開口ヲ求ムレバ

第 1 内頸靜脈把手=入ルモノ。

望月	120例	♂右30例	左35例	♀右10例	左8例	計83例	69.0%	
小河	60,,	11	10	5	2	28	46.6	兩側♂7例♀1例
計	180,,	41	45	15	10	111	61.6	

第 2 内頸靜脈=直接=入ルモノ。

望月	120例	♂右7例	左5例	♀右4例	左3例	計19例	15.8%	兩側♂1例♀1例
小河	60,,	3	7	2	6	18	30.0	♂2 ♀2
計	180,,	10	12	6	9	37	20.5	

第 3 總顔面靜脈=入ルモノ。

望月	120例	♂右4例	左3例	♀右0例	左1例	計8例	6.6%	兩側♂2例
小河	60,,	4	3	0	0	7	11.6	♂1
計	180,,	8	6	0	1	15	8.3	

第 4 内頸靜脈=開口スル前顔面靜脈=入ルモノ。

望月	120例	♂右2例	左1例	♀右1例	左0例	計5例	4.1%	
小河	60,,	0	0	1	2	3	5.0	兩側♀1例
計	180,,	3	1	2	2	8	4.4	

第 5 後顔面靜脈=入ルモノ。

望月	120例	♂右0例	左1例	♀右1例	左0例	計2例	1.6%	
小河	60,,	3	1	0	0	4	6.6	
計	180,,	3	2	1	0	6	3.3	

第 6 不明ノモノ。

望月	120例	♂右0例	左0例	♀右3例	左0例	計3例	2.5%	
小河	60,,	0	0	0	0	0	0	
計	180,,	0	0	3	0	3	1.6	

中 甲 狀 腺 靜 脈

甲狀腺側面ヨリ外側或ハ斜下方ニ向ヒテ内頸靜脈=開口スル靜脈

望月	120例	♂右24例	左14例	♀右6例	左5例	計49例	40.8%	兩側♂9例♀4例
小河	60,,	7	12	5	5	29	48.3	♂5 ♀4
計	180,,	31	26	11	10	78	43.3	

下 甲 狀 腺 靜 脈

甲狀腺下縁又ハ之ニ近ク起ル靜脈ヲ總稱シテ之ヲ下甲狀腺靜脈トセリ、故ニ茲ニハ所謂最下甲狀腺靜脈ヲモ含ム。下甲狀腺靜脈ハ左右ノ無名靜脈或ハ兩者ノ會合部ニ入ル靜脈ナリ。(但シ、内頸靜脈ニ入ルモノハ下甲狀腺靜脈トシテ之ヲ取ラス) 通常2條乃至3條ノ起始ヲ有スレドモ開口ノ際ハ1條ニ合スルアリ又、2條、3條ヲ以テ開口スルアリテ一様ナラス次ノ如ク分類セリ。

第 1 1條ヲ以テ開口スルモノ。

望 月	60體	♂ 15	♀ 3	計18體	30.0%
小 河	28	♂ 11	♀ 1	12	42.8%
計	88	26	4	30	34.0%

コノ内1例(望月1例, 小河0)ニ於テハ右側無名靜脈ニ入ル。其他ハ總テ左側無名靜脈或ハ兩無名靜脈ノ會合部ニ入ル。而シテ左側無名靜脈ニ入ルモノト雖モ多クハ會合部ニ近ク入り左側鎖骨下靜脈ニ近クスルモノ1例(望月1例, 小河0)ヲ見タリ。

第 2 2條ヲ以テ開口スルモノ。

望 月	60體	♂ 21	♀ 11	計32體	53.3%
小 河	28	4	5	9	35.1%
計	88	25	16	41	46.5%

コノ内2條トモ左側無名靜脈ニ開口スルモノ。

望 月	♂ 10	♀ 6	計16例
小 河	0	0	0
計	10	6	16

左右ノ無名靜脈ニ1條宛ヲ入ルモノ。

望 月	♂ 5	♀ 3	計 8例
小 河	0	1	1
計	5	4	9

1條ハ左側無名靜脈他ノ1條ハ會合部ニ入ルモノ。

望 月	♂ 6	♀ 2	計 8例
小 河	4	∴	7
計	10	5	15

1條ハ右側無名靜脈他ノ1條ハ會合部 1例

第 3 3條ヲ以テ開口スルモノ。

望 月	60體	♂ 9	♀ 1	計10例	16.6%
小 河	28	4	2	6	21.4%
計	88	13	3	16	18.1%

コノ内ニ3條ノ靜脈ガ左側無名靜脈及會合部ニ入ルモノ。

望 月	60體	♂ 5	♀ 1	計 6例
小 河	28	∴	2	5
計		8	∴	11

1條ハ右側無名靜脈ニ他ノ2條ハ左側無名靜脈及會合部ニ入ルモノ。

望 月	60體	♂ 4	♀ 0	計4例
小 河	28	1	0	1
計		5	0	5

第 4 4條ヲ以テ開口スルモノ ♀ 1例, 望月之ヲ見ズ。

以上下甲狀腺靜脈ハ開口ニ際シ左右無名靜脈或ハ其ノ會合部ノ上縁ニ直行スルヲ以テ通則トス。然レドモ胸腔内ヨリ來ル胸腺靜脈, 心囊靜脈, 上橫隔靜脈等ノ小靜脈ヲ收容シ下甲狀腺靜脈ハ直下セズシテ左側無名靜脈前方ニ於テ蹄係ヲ作リテ(時トシテ網眼或ハ叢ニ近キ複雑ナル形態ヲナシテ)無名靜脈ノ前壁或ハ下縁ニ開口スルモノ。

望 月	60體	♂ 6	♀ 0	計 6例	10.0%
小 河	28	0	0	0	0 %
計	88	6	0	6	6.8%

下甲狀腺靜脈ノ1條ハ胸舌骨筋ヲ貫通シテ右側前頸靜脈ニ開口スルモノ。

望 月	♂ 2	♀ 0	計 2例
小 河	0	0	0
計	2	0	2

右側前頸靜脈ノ1分枝ヲ容レテ共ニ無名靜脈會合部ニ開口スルモノ。

望 月	♂ 1	♀ 0	計1例
小 河	0	0	0

開口不明ノモノ 小河 2體, 望月 ナシ

上甲狀腺靜脈ヲ除キ中及ビ下甲狀腺靜脈ノ兩者ヲ合セテ無對ノ一團トシテ存在スル靜脈ノ數ヲ計算スルニ次表ノ如シ。

第 4 表

	下		中		例 數		合計例數		總 計 例 數
	望月	小河	望月	小河	望月	小河	望月	小河	
1 條ノ場合	1條	1條			7	2	7	2	9
2 條ノ場合	2條	2條			12	5	21	12	33
	1條	1條	1條	1條	9	7			
3 條ノ場合	1條	1條	2條	2條	5	4	17	9	26
	2條	2條	1條	1條	10	2			
	3條	3條			2	3			
4 條ノ場合	2條	2條	2條	2條	7	2	13	4	17
	3條	3條	1條	1條	6	2			
5 條ノ場合	3條	3條	2條	2條	2	1	2	1	3

第12章 内 乳 靜 脈

本靜脈ハ唯其開口部ニ就テノミ之ヲ視タルノミ。

右側内乳靜脈開口

1) 左右無名靜脈ノ會合部前面ニ入ルモノ。

望月	60側	♂(記載ナシ)	♀(記載ナシ)	計55	91.6%
小河	29	21	7	28	96.5%
計	89			83	93.2%

2) 右側無名靜脈ノ中央前面ニ開口スルモノ

望月	60側	♂ 0	♀ 3	計 3	5.0%
小河	29	0	0	0	0%
計	89	0	3	3	3.3%

3) 1)ト2)ノ間ニ於テ開口スルモノ。

望月	60側	♂ 5	♀ 2	計 7	11.6%
小河	29	1	0	1	3.4%
計	89	6	2	8	8.9%

4) 不明ナルモノ。小河 1例(♀), 望月ナシ。

左側内乳靜脈ノ開口

左側内乳靜脈ハ總テ左側鎖骨下靜脈ニ近ク左側無名靜脈ノ下縁ニ於テ開口ス。望月60側, 小河28側(30側中2側不明)

第13章 大ナル幹靜脈

幹靜脈(内頸靜脈, 鎖骨下靜脈, 無名靜脈, 上空靜脈)ハ望月氏ノ記載セシ如ク極メテ一定ニシテ余モ其破格ノ1例ヲモ見ズ。

第14章 頸靜脈ノ大サ及ビ左右形態ノ比較

第1. 大サ(直徑)ノ比較

内頸靜脈ハ其注入シタル状態ニ於テハ其中央以下ニ於テ紡錘狀ノ膨大ヲ現ス。而シテ直徑ハ此部ニ於テ最も大ナリ。内頸靜脈ノ最大徑ト上空靜脈ノソレト比較スルニ(左右ノ内頸靜脈ノ内大ナル方ヲ取レリ)

内頸靜脈ガ上空靜脈ヨリ大ナルモノ	望月	24例	小河	5例	計29例
内頸靜脈ト上空靜脈ト同等ノモノ	望月	8	小河	4	12
内頸靜脈ガ上空靜脈ヨリ小ナルモノ	望月	15	小河	18	33
不明ノモノ	望月	3	小河	3	6

即チ41例(望月32例, 53.3%。小河9例, 30%)ニ於テ内頸靜脈ハ上空靜脈ト同等或ハ以上ノ直徑ヲ有ス。上空靜脈ヲ無名靜脈(中央部ニ於テ計測)及ビ鎖骨下靜脈(鎖骨下筋ト交叉スル部ニ於テ計測)ト比較スルニ(左右ノ内大ナルモノヲ取レリ)

上空靜脈ガ鎖骨下靜脈ヨリ大ナルモノ	望月	46例	小河	25例	計71例
上空靜脈ト鎖骨下靜脈ト同等ノモノ	望月	5	小河	0	5
上空靜脈ガ鎖骨下靜脈ヨリ小ナルモノ	望月	5	小河	1	6
不明ノモノ	望月	4	小河	4	8
上空靜脈ガ無名靜脈ヨリ大ナルモノ	望月	45	小河	27	72
上空靜脈ト無名靜脈ト同等ノモノ	望月	5	小河	0	5

上空靜脈ガ無名靜脈ヨリ小ナルモノ	望月	8	小河	1	9
不明ノモノ	望月	3	小河	2	5

即チ一般ニ上空靜脈ハ鎖骨下靜脈及ビ無名靜脈ヨリ大ナル直徑ヲ有ス。外頸靜脈ハ動物ニ於テハ比較的大ニシテ内頸靜脈トノ差少シ。余ハ兩靜脈ノ大サヲ比較セルニ常ニ其差著シク數倍ヨリ10數倍ニ及ビ時ニ外頸靜脈ノ缺損セルコト有リ。又前顔面靜脈ガ外頸靜脈ニ入ルコトハ動物ニ於テ普通見ル所ノ形態ナリ。而シテ人類ニ於テハ之ト同様ノ場合ニ於テモ尙ホ内頸靜脈ハ外頸靜脈ヨリ著シク大ナリ。次ニ左右同名ノ靜脈ニ就イテ其直徑ヲ比較スルニ、

1) 前顔面靜脈ニ於テハ(下齶骨基底部分ニ於テ測定)

右側ガ左側ヨリ大ナルモノ	望月	24例	小河	10例	計34例
右側ト左側同等ノモノ	望月	26	小河	9	35
右側ガ左側ヨリ小ナルモノ	望月	20	小河	11	31

2) 前頸靜脈ニ於テハ(橫行部ニ於テ測定)

右側ガ左側ヨリ大ナルモノ	望月	34例	小河	11例	計45例
右側ト左側同等ノモノ	望月	16	小河	10	26
右側ガ左側ヨリ小ナルモノ	望月	10	小河	5	15
不明ナルモノ	望月	0	小河	4	4

3) 外頸靜脈ニ於テハ(胸鎖乳様筋後縁ニ於テ2條モ1條ニ合シタル最大ノ直徑ヲ有スル部分ヲ測定)

右側ガ左側ヨリ大ナルモノ	望月	23例	小河	16例	計39例
右側ト左側同等ノモノ	望月	19	小河	6	25
右側ガ左側ヨリ小ナルモノ	望月	18	小河	8	26

4) 内頸靜脈ニ於テハ(前記最大ノ直徑ヲ有スル部分)

右側ガ左側ヨリ大ナルモノ	望月	41例	小河	22例	計63例
右側ト左側同等ノモノ	望月	5	小河	2	7
右側ガ左側ヨリ小ナルモノ	望月	13	小河	6	19
不明ノモノ	望月	1	小河	0	1

5) 無名靜脈ニ於テハ

右側ガ左側ヨリ大ナルモノ	望月	13例	小河	8例	計21例
右側ト左側同等ノモノ	望月	7	小河	7	14
右側ガ左側ヨリ小ナルモノ	望月	37	小河	15	52
不明ノモノ	望月	3	小河	0	3

上記ノ如ク一般ニ右側ハ左側ヨリ大ナリ。少クトモ内頸靜脈ニ於ケル著シキ差ハ偶然ナラザルベシ。然レドモ無名靜脈ニ於テハ其關係全ク之ト反對ナリ。之ハ左側ノ無名靜脈ハ色素注入後胸骨柄ノタメニ壓迫セラレテ其横斷面ハ扁平或ハ卵圓形ヲナシテ固定ス。而シテ余ハ其最大ノ上下縁ノ直徑ヲ取りテ比較シタルニ由ルナルベシ。

第2. 左右無名靜脈ノ長サノ比較

測定ノ目標トシテ無名靜脈ノ上縁ヲ取ル場合ト下縁ヲ取ル場合ニ依リテ長サヲ異ニス。望月氏及ビ余ハ最小ノ長サヲ有スル上縁ヲ測定セル數字ヲ以テ比較セリ。而シテ左側ハ常ニ右側ヨ

リモ大ニシテ

1. 左側ガ右側ノ2倍ニ達セザル場合	望月	8體	小河	7體	計15體
2. 左側ガ右側ノ2倍以上ノ長サヲ有スルモノ	望月	38	小河	18	55
3. 同ジク3倍以上ニ及ブモノ	望月	12	小河	4	16
3. 左側ガ右側ノ8倍ニ相當スルモノ	望月	1	小河	0	1
5. 不明ノモノ	望月	1	小河	2	3

通則トシテハ2倍乃至3倍ノ大サヲ以テ左側無名靜脈ハ右側無名靜脈ヨリモ大ナリ。

第3. 開口其他左右形態ノ比較

1) 前顔面靜脈ノ開口ハ頸動脈窩ニ於テ深部ニ入ルコトハ左右略同數ナレドモ總顔面靜脈ヲ作ルコトハ右側ニ多シ。左側ハ之ニ反シ直接内頸靜脈ニ多ク入ル(第5表)。

第 5 表

前顔面靜脈ノ開口	右			左		
	望月	小河	計	望月	小河	計
V. f. comヲ作ル	23回	15回	38回	15回	13回	28回
V. j. extニ入ル	18	6	24	20	11	31
V. j. intニ入ル	11	1	12	16	1	17
V. j. antニ入ル	7	1	8	9	5	14
耳前ニ行フ	3	1	4	2	0	2

2) 耳前靜脈交會ノ形態及ビ其主流ガ何レノ靜脈トナリテ心臟ニ向フカニ關シテハ左右大差無シ(第6表, 第7表)。

第 6 表

	型	右			左		
		望月	小河	計	望月	小河	計
耳前靜脈交會	A	26回	9回	35回	36回	17回	53回
	B	8	0	8	2	1	3
	C	8	16	24	8	11	19
	D	13	4	17	12	1	13
	E	3	1	4	2	0	2

第 7 表

耳前靜脈交會ヨリノ主流	右			左		
	望月	小河	計	望月	小河	計
V. f. post.ニ入ル	30回	7回	37回	26回	14回	40回
V. j. ext.ニ入ル	16	15	31	15	4	19
V. j. ant.ニ入ル	2	0	2	2	0	2
V. f. post.ニ延長	6	1	7	3	2	5
V. j. ext.ニ延長	5	0	5	5	0	5

3) 外頸靜脈ノ起始ハ

イ. 單一ニ耳前ノミヨリ主流ヲ起スモノ

左 望月17回 小河 9 計26 右 望月22 小河 5 計27

ロ. 耳前及前顔面靜脈ヨリノ2條ヲ有スルモノ

左 望月24回 小河11、計35 右 望月17 小河14 計31

ハ. 外頸靜脈ヲ缺クカ存在不明ノモノ

左 望月 2回 小河 1 計 3 右 望月 5 小河 1 計 6

4) 外頸靜脈ノ開口ハ

イ. 内頸靜脈ニ入ルモノ

左 望月 9回 小河 3 計12 右 望月 6 小河 5 計11

ロ. 1脚ヲ以テ鎖骨下靜脈ニ入ルモノ

左 望月26回 小河10 計36 右 望月19 小河13 計32

肩胛舌骨筋ノ外側ヲ通ルモノ

左 望月13回 小河 9 計22 右 望月10 小河10 計20

肩胛舌骨筋ノ内側ヲ通ルモノ

左 望月13回 小河 1 計14 右 望月 9 小河 3 計12

ハ. 2脚ヲ以テ鎖骨下靜脈ニ入ルモノ

左 望月 7回 小河 1 計 8 右 望月17 小河 3 計20

ニ. 2脚再ビ合シテ島ヲ作ルモノ

左 望月11回 小河 7 計18 右 望月 9 小河 2 計11

5) 前頸靜脈ノ起始トシテ前顔面靜脈ヨリ來ルモノ

左 望月11回 小河 6 計17 右 望月 9 小河 6 計15

6) 内頸靜脈把手ハ望月氏ハ左右略同數ニシテ存在シ亦略同數ニ於テ之ヲ缺ク、之ヲ缺クモノハ

左望月13回 小河20 計33 右望月14 小河13 計27

以上、左右個々ニ就イテハ多少ノ差異ヲ見出セドモ著シキ變化有ルヲ見ズ。然ラバ左右形態ヲ同ジウスルモノ即チ左右相稱ノ有無ニ就テ如何ナル關係ニ置カル、カヲ觀察センニ

1) 前顔面靜脈開口ヲ左右同ジウスルモノノ46體(望月27體, 小河19體)25.5%アリコノ中

イ. 兩側トモ總顔面靜脈ニ入ルモノ	望月 9體	小河 12體	計21
ロ. 兩側トモ外頸靜脈ニ入ルモノ	望月 11體	小河 5體	計16
ハ. 兩側トモ内頸靜脈ニ入ルモノ	望月 3體	小河 1體	計 4
ニ. 兩側トモ前頸靜脈ニ入ルモノ	望月 2體	小河 1體	計 3
ホ. 兩側トモ耳前ニ行クモノ	望月 2體	小河 0體	計 2

2) 耳前靜脈交會ノ型ヲ左右同ジウスルモノノ49體(望月33體, 55.0%。小河16體, 53.3%)アリ。コノ中

イ. 兩側トモA型ヲ有スルモノ	望月 22體	小河 8體	計30
ロ. 兩側トモB型ヲ有スルモノ	望月 1體	小河 0體	計 1
ハ. 兩側トモC型ヲ有スルモノ	望月 4體	小河 8體	計12

ニ. 兩側トモD型ヲ有スルモノ 望月 6體 小河 0體 計 6

3) 後面靜脈ノ開口ヲ左右同ジウスルモノ45體(望月30體, 小河15體)50%アリ。コノ中

- イ. 兩側トモニ腹頸筋及莖狀舌骨筋ノ内側ヲ内頸靜脈ニ入ルモノ 望月27體 小河8體 計35
- ロ. 兩側トモニ腹頸筋及莖狀舌骨筋ノ内側ニテ總顔面靜脈ヲ作ルモノ 望月 2體 小河3體 計 5
- ハ. 兩側トモニ腹頸筋及莖狀舌骨筋ノ外側ニテ總顔面靜脈ヲ作ルモノ 望月 1體 小河4體 計 5

4) 外頸靜脈ノ開口ヲ左右同ジウスルモノ22體(望月15體, 小河7體)22.2%アリ。コノ中

- イ 兩側トモ1條ヲ以テ肩胛舌骨筋ノ外側ヲ過グルモノ 望月 2體 小河 4體 計 6
- ロ. 兩側トモ1條ヲ以テ肩胛舌骨筋ノ内側ヲ過グルモノ 望月 2體 小河 1體 計 3
- ハ. 兩側トモ2條ヲ以テ肩胛舌骨筋ヲ内外ヨリ挟ムモノ 望月 3體 小河 0體 計 3
- ニ. 兩側トモ島ヲ作ルモノ 望月 7體 小河 0體 計 7
- ホ 兩側トモ内頸靜脈ニ入ルモノ 望月 1體 小河 2體 計 3

5) 前頸靜脈ハ大多數ニ於テ外頸靜脈或ハ肩胛橫靜脈ニ開口スルガ故ニ外頸靜脈或ハ肩胛橫靜脈ニ對シテハ左右相稱ヲ以テ通則トス。73體, 85.8%(望月51體, 85.0%, 小河22體, 87.1%)アリ。然レドモ大幹靜脈ニ對シテハ前頸靜脈ハ外頸靜脈ノ開口狀況ト全く其運命ヲ共ニスルガ故ニ左右相稱ハ前記外頸靜脈ノ22體(望月15體, 小河7體)ヲ出デズ。

6) 内頸靜脈把手ハ分枝及ビ大サ等細カキ形態ニ就イテハ何レモ相異スレドモ存在スルコトニ於テ左右相稱ノモノ44體, 24.4%(望月37體, 61.6%, 小河7體, 23.3%)アリ。

即チ個々ノ靜脈而モ其一部分ノミヲ比較スル時ハ左右同様ノ形態ヲ有スル例多數ニ存ス。之ヲ各靜脈ノ起始, 經過及開口ヲ通ジテ左右相稱ノモノヲ求ムレバ甚ダ小數トナル。今頸靜脈中最モ興味アル外頸靜脈ノ形態ニ就イテ左右相稱ノモノヲ數フレバ, 7體, 7.7%(望月5體, 8.3%, 小河2體, 6.6%)ニ過ギズ。而シテコノ7例ニ於テモ支流ノ有無及直径ノ大小ヲ合セ考フル時ハ全形ヲ舉ゲテ左右相稱ナリト云フ事ヲ得ズ。況ヤ1側ノ靜脈全部ニ互リテ他側ト左右相稱ノモノ1體モ無シ。

第15章 男女性的差等

男66體(望月45體90側, 小河21體42側)132側, 女24體(望月15體30側, 小河9體18側)48側ニ於テ性的變化ヲ觀察スレバ次ノ如シ。女ノ數少シ, 百分率ヲ出スニモ及バザレドモ後日ノ參考ノタメニ其ノ數ヲ掲ゲ置カン。(第8, 9, 10, 11, 12, 13表)

第 8 表

耳前靜脈交會ノ型	男						女					
	例 數			%			例 數			%		
	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計
A	53	22	75	60.2	52.3	57.6	9	4	13	30.0	22.2	27.0
B	10	1	11	11.1	2.3	8.4		0	0			
C	10	16	26	11.1	38.0	20.0	6	11	17	20.0	61.1	35.3
D	10	2	12	11.1	4.7	9.2	15	3	18	50.0	16.6	37.5
E	5	1	6	5.5	2.0	4.6		0	0			

第 9 表

耳前靜脈交會ノ主流	男						女					
	例 數			%			例 數			%		
	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計
V. fac. post. トナル	49	20	69	54.4	57.1	58.9	5	1	6	16.6	12.5	17.1
V. jug. ext. = 入ル	18	12	30	20.0	34.2	25.6	14	7	21	46.6	87.5	60.0
V. jug. ant. = 入ル	3	0	3	3.3		2.5	1	0	1	3.3		2.8
V. fac. post. = 延長	8	3	11	8.8	8.5	9.4	1	0	1	3.3		2.8
V. jug. ext. = 延長	4	0	4	4.4		3.4	6	0	6	20.0		17.1

第 10 表

後顔面靜脈開口	男						女					
	例 數			%			例 數			%		
	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計
筋ノ内側 = テ V. j. int	54	16	70	60.0	48.4	56.4	18	8	26	66.6	57.1	70.2
筋ノ内側 = テ V. f. com.	22	6	28	24.4	18.1	22.5	5	5	10	10.0	35.7	27.0
筋ノ外側 = テ V. f. com.	15	11	26	16.6	33.3	20.9	0	1	1	0	7.1	2.7

第 11 表

前顔面靜脈ノ開口	男						女					
	例 數			%			例 數			%		
	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計
V. fac. com. ヲ作ル	33	22	55	35.4	50.0	39.8	5	6	11	16.6	37.5	20.3
V. jug. ext. = 合ス	25	12	37	27.7	27.2	26.8	13	5	18	43.3	31.2	33.3
V. jug. int. = 入ル	20	0	20	22.2		14.4	7	2	9	23.3	12.5	16.6
V. jug. ant. トナル	7	5	12	7.7	11.8	8.6	9	1	10	30.3	6.2	18.5
耳前 = 方向轉換	5	1	6	5.5	2.2	4.3		0	0			
Plex-pteryg. = 入ル	2	0	2	2.2		1.4		0	0			
重複計算ノモノ	2	4	5	2.2	7.0	4.3	4	2	6	13.5	12.5	11.1

第 12 表

外頸靜脈ノ起始	男						女					
	例 數			%			例 數			%		
	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計
耳前ノミヨリ主流ヲ起ス	32	11	43	35.5	20.7	30.0	7	3	10	23.3	13.0	16.6
耳前及 V. f. c. ant. ヲリ	28	17	45	31.1	32.0	31.4	13	8	21	43.3	34.7	35.0
耳前及 V. aur. post. ヲリ	16	10	26	17.7	18.8	18.1	9	6	15	30.6	26.0	25.0
耳前及 V. jug. ant. ヲリ	6	2	8	6.6	3.7	5.5	2	1	3	6.6	4.3	5.0
耳前 V. f. ant. 及 V. aur. post.	2	11	13	2.2	20.7	9.0	5	5	10	16.6	21.7	16.6
外頸靜脈ヲ缺損ス	6	2	8	6.6	3.7	5.5	1	0	1	3.3		1.6

(但シ耳前, V. f. ant. 及ビ V. aur. post. 小河 11, ♀5ハ總テ重複セシモノナリ)

第 13 表

外頸靜脈ノ開口	男						女						
	例 數			%			例 數			%			
	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計	望月	小河	計	
内頸靜脈 = 入ル	11	6	17	12.2	22.2	14.5	4	2	6	13.3	11.7	12.0	
鎖骨下靜脈	1 脚ヲ以テ筋ノ外側	12	10	22	13.3	37.0	18.8	11	9	20	36.6	52.9	40.0
	同上 内側	22	4	26	24.4	14.8	22.2		0	0			
	2 脚ヲ以テ筋ヲ挟ム	15	2	17	16.6	7.4	14.5	9	2	11	30.9	11.7	22.0
島ヲ作ルモノ	30	5	35	33.3	18.5	29.9	9	4	13	16.0	23.5	26.0	

擱筆スルニ臨ミ木原教授ノ御指導ト御鞭撻トニ對シ且ツ又終始懇篤ナル御示教ト御校閲ヲ賜ハリシ立文太郎先生ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表ス。